

SDGs 報告書

エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

人間科学部現代社会学科 2 年 島崎寧々

カナダ・ランガラカレッジ

1. このテーマを選んだ理由

私が今回の留学で選んだ SDGs のテーマは「エネルギーをみんなに そしてクリーンに (SDG7)」だ。このテーマを選んだ理由は、現代社会においてエネルギーは生活の基盤でありながら、地球温暖化や資源の枯渇といった深刻な課題を抱えていると感じたからだ。特に、私の地元である茨城県と、今後滞在するカナダ・バンクーバーを比較した際、カナダは国全体の電力供給の 60%以上を水力発電が占めるなど再生可能エネルギーの比率が非常に高いことを知った。そこで、カナダの先進的なエネルギー政策や市民の意識を調査し、それを茨城県の地域特性に合わせてどう活かせるかを考えたいと思った。

2. 調査

まず、街を観察して分かったことは、電気自動車 (EV) とその充電インフラが生活に完全に溶け込んでいることだ。バンクーバー市内では、ショッピングモールやホテルの駐車場など至る所に「EV 専用充電スタンド」が設置されていた。「Electrify Canada」というアプリを使えばすぐに充電場所を検索でき、誰もが充電に困ることなく EV を利用できる仕組みが整っていた。また、公共交通機関の「電動化」も進んでおり、無人運転の「スカイトレイン」や電気バス (e-bus) が頻繁に運行されていた。BC Transit などの交通局は、2026 年に向けて大規模な電気バス導入計画を進めており、行政が主導してクリーンな移動手段を提供していることが分かった。さらに市民へのインタビューや観察を通して、多くの人がマイボトルを持ち歩き、短距離なら車を使わず徒歩や自転車を選ぶなど、「車に依存しない生活」や「使い捨てを減らす行動」を当たり前のように行っていることにも気づいた。

3. 見解・考察

今回の調査により、バンクーバーでは豊富な水資源による再生可能エネルギーの導入だけでなく、市民一人一人が環境への意識を持ち、クリーンな移動手段を積極的に選択していることが分かった。“市民一人一人が行動している”という点がポイントだが、その秘訣は、アプリで簡単に充電場所が見つかる利便性や、公共交通の徹底した電動化など、制度や環境が整っていることにあると考える。一方で日本 (茨城県) の現状と比較すると、充電スタンドの不足や充電時間の長さが EV 普及の壁になっていることが分かった。また、地方特有の「車社会」であるため、意識だけでは脱炭素は難しい。カナダのように「インフラの義務化」や「利便性」を高めることで、市民が我慢せずに環境対策に参加できる土台作りが必要だと強く感じた。

4. 茨城県で実現可能な SDGs の取り組み

カナダで行われていた SDGs の取り組みを参考に、茨城県（特に日立・ひたちなか・東海エリア）で実現可能な取り組みを考えると、地域の産業特性である「ものづくり」や「既存インフラ」を生かした電動化が有効である。具体的には、以下の3点を提案したい。

第一に、日立市の「日立 BRT（バス高速輸送システム）」を完全電動化のモデル路線にすることだ。バンクーバーのようにバス停で停車中に急速充電できる仕組みを導入すれば、効率的な運行が可能になる。第二に、工場が多い地域特性を活かした「職域 EV シフト」だ。工場や職場の駐車場に EV 充電器を設置する費用を補助し、通勤車の電動化を促すことは、茨城のような車社会では非常に効果的だと考える。第三に、東海村や水戸市などのスクールバスを電気バスに変えることだ。これは子供たちの環境教育になるだけでなく、災害時には「移動式蓄電池」として避難所で電力を供給する役割も果たせる。まずは制度やインフラから整えていき、県民一人一人が自然と環境に配慮した行動をとれる社会を目指していきたい。